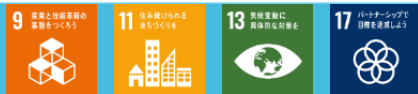




Nagoya University COI-NEXT  
My-mobility Co-creation Center



# 地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点 ～みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会～

名古屋大学COI-NEXT地域共創分野 プロジェクトリーダー  
森川 高行  
(名古屋大学 未来社会創造機構 名誉教授・特任教授)

2024年11月8日





中部先進モビリティ  
実装プラットフォーム



採択前（2022年）、なごのキャンパス  
の方に本拠点のワークショップに参加

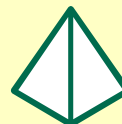


なごのキャンパス  
NAGONO CAMPUS

エキ・シロ地区で研究開発  
～歴史的商業地区再生プロジェクト～



名古屋大学 COI-NEXT  
マイモビリティ共創拠点



Tongali

Tongali  
アイデアピッチコンテスト



## 地域密着した活動を通して社会を変えたい気持ちが繋がり 『NAGOFES2024』でコラボ実現



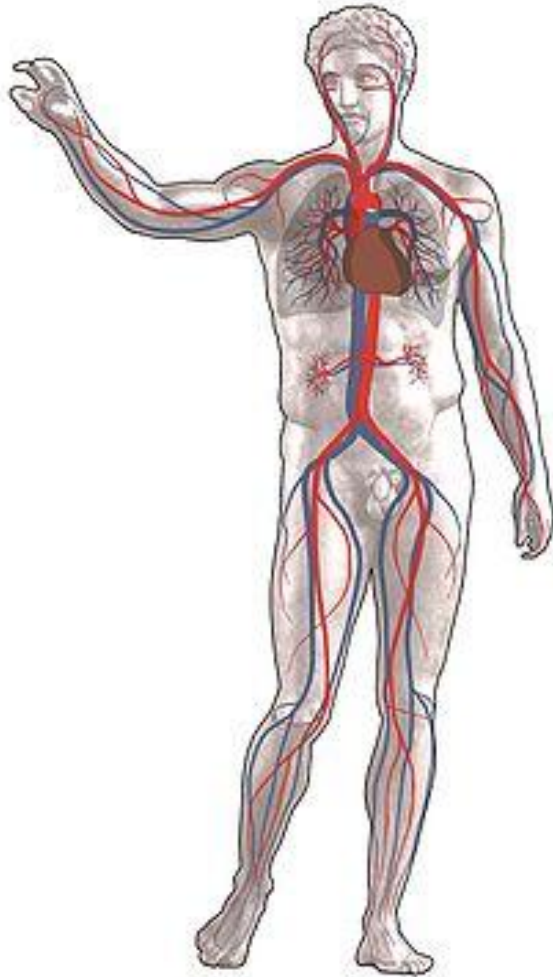
— 5th anniversary —

## NAGOFES 2024

2024.11.8 [Fri.] 9 [Sat.]

@ NAGONO CAMPUS

## 交通システムは地域や街の「循環器」



- 動物には、酸素や栄養を身体の間々まで供給し、二酸化炭素や老廃物を回収する**循環器**は必須
- 地域にも、ヒト・モノ・廃棄物を運ぶ**交通システム**は必須で、その衰退はすなわち地域の衰退となる
  - ICTで運べるのはあくまで「情報」だけ

- マイカーでの移動は、いつでもどこでもドアツードアで行け、便利で快適であるが、車に過度に依存した名古屋都市圏は公共交通のサービスレベルが低い地域が多く、**マイカーを使わない人には不便**を強いている。
- 自動車中心の交通は、渋滞、事故、温暖化ガス排出、中心市街地の衰退など**社会的問題も大きい**。
- たとえ完全自動運転車（レベル5）が普及したとしても、自動車の輸送密度は低いため、都市での移動には**中量輸送以上の公共交通機関が必要**。
- 大都市圏の公共交通においても、1次交通は比較的健全であるが、**2次交通以下は利用者減とサービスレベル低下の悪循環**をたどっており、このままでは**存続が難しい**。地方都市以下では1次の公共交通機関から存続の危機を迎えている。

**幹：**  
1次交通  
(鉄道、地方の基幹的バス)

**枝：**  
2次交通  
(バス、タクシー、送迎)

**葉：**  
3次交通  
(徒歩、自転車、バイク、シェアサイクル、送迎)



**マイモビリティ共創拠点  
の主な研究開発対象**

マイカーを使わない（運転できない、したくない）人

車離れが進むZ世代など

社会への公平なアクセス機会を提供

若い世代の移動まで



免許を持ってない  
世代



マイカー文化を  
持たないZ世代



家族の送迎、通勤・通学  
・幼稚園、保育園、習い事などの送迎  
・駅までの移動  
・満員の公共交通や渋滞などのストレス



買い物など  
日常の外出

電気抵抗がゼロになる超電導のように、移動の抵抗（**ストレス**）が極めて小さくなる社会（**超移動社会**）と移動問題に主体的に関わり・作り上げた移動手段（**マイモビリティ**）

地域の循環器である移動システムを高度化・持続化し、  
マイモビリティによる超移動社会の実現を目指す

## 地域拠点ビジョン

みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」  
をかなえる**超移動社会**



1次交通  
(鉄道、地方の基幹的バス)



2次交通  
(バス、タクシー、送迎)

3次交通  
(徒歩、自転車、バイク、  
シェアサイクル、送迎)

移動問題に主体的に関わり、作り上げた移動手段  
「マイカー」から「**マイモビリティ**」へ

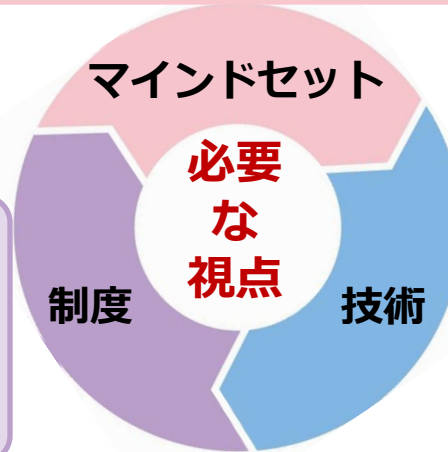
## 地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会

### 10年後に目指すもの

- ✓ マイカーを利用しない人もストレスなく移動でき、持続的な運営が可能な**地域モビリティサービスの実装**
- ✓ 人々が生き生きと活動し、**Well-beingを感じることのできる地域**の持続
- ✓ このような「**超移動社会**」を実現する「**東海地域モビリティモデル**」の発信と横展開
- ✓ 移動に関する困りごとを産官学民で解決する方法論が蓄積・進化し、産学官民共創する「**地域モビリティ課題のソリューションセンター**」の拠点の形成

- 移動の問題を自分事と考える「**マイモビリティ**」。移動が生活、健康、機会に大きくかわり、社会問題の解決にもつながることを認識
- 身近な範囲の移動課題には、地域組織、地域事業者、交通事業者、自治体などが作り上げる「**マイクロMaaS**」でマイモビリティを実装



- 2次・3次交通を広く展開・持続させる「**スマートモビリティ公共財プラットフォーム**」の構築
- モビリティイノベーションを社会に敷衍させる**法制度整備**

- 地域モビリティサービスを実現・持続可能にする「**自動運転技術**」の活用
- データ駆動による**地域モビリティサービスのアジャイル更新**
- 移動時間の質を変革する「**インフォテインメントシステム**」の利用

これらで生み出されるモビリティイノベーションを、**利用者のWell-beingと地域のSustainabilityという視点から評価**



松尾清一  
機構長



杉山直  
総長



佐宗章弘  
副総長



森川高行  
PL



安藤章  
副PL



伊藤大  
PL補佐  
(名古屋市住宅都市局長)



加藤達也  
PL補佐  
(春日井市副市長)



代表機関：名古屋大学、幹事機関：名古屋市、春日井市、中部経済連合会、岐阜大学  
8企業/団体、6大学/研究機関、5自治体 アンダーワンループで活動推進



ボトルネックに切込む **先進地域モビリティシステム (AS)** と

未来を切り拓く **革新的地域モビリティシステム (IS)**

それらを支える **法制度と評価手法 (LV)**



## 先進地域モビリティシステム（AS）開発に取り組むフラッグシッププロジェクト

### ①名古屋東北回廊プロジェクト

名古屋駅と春日井市高蔵寺ニュータウンを結ぶ回廊地域において、自動運転、バス高度化、オンデマンド乗合交通、MaaSなどを組み合わせた地域イノベーション

### ②歴史的商業地区再生プロジェクト

歴史的商業の街「エキ・シロ地区」において、自動運転など先進モビリティに楽しさを体験できるモビリティの導入による地域イノベーション

### ③岐阜市遊覧都市再生プロジェクト

昭和初期に掲げられた「遊覧都市」構想を自動運転バスによって再推進する地域イノベーション

### ④名古屋西南回廊プロジェクト

名古屋市郊外の地域主体のまちづくりと連携しつつ、多様なサービス連携・MaaSで都心ゾーンへの移動利便性も向上させる地域イノベーション

自動運転技術（レベル2）を活用した公共ライドシェア（2023年2月～）



高蔵寺NTにてMaaSアプリ連携実証実験（2023年12月～2024年5月）



#### 遊覧都市再生プロジェクト

自動運転の継続実証実験（2023年秋～）



#### 岐阜市都心部 川原町地区

パーソナルモビリティ  
自動運転実証実験  
（2024年1月）



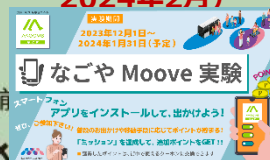
#### 歴史的商業地区 再生プロジェクト

エキ・シロ地区

名古屋市南陽地区でのAIオンデマンド交通、MaaSアプリの実証実験（2024年秋～）



移動データ収集実験  
（2023年12月-2024年2月）



## 「Digi田甲子園2023」 地方公共団体部門で 春日井市の取組みにて準優勝 を受賞 地域共助による自動運転ラストマイル送迎サービスの社会実装



**審査員講評**  
人工衛星データを活用した水道管の漏水エリア診断やAIを活用した劣化予測診断を通じて、水道管の健康状態を「見える化」し、実際に漏水調査業務の省力化につながっている優れた取組。水道管の維持管理は対応職員の減少等で全国の自治体で同様の課題が想定されるため、今後の横展開が期待できる。

**準優勝**  
共助による自動運転ラストマイル送迎サービスの社会実装

**交通、物流** 愛知県春日井市

地域共助による自動運転ラストマイル送迎サービスの社会実装

地域の高低差が大きく、高齢化率も高い春日井市石尾台地区において、住民の外出機会の促進や健康増進を目的に、地元住民が主体となってNPO法人を設立。行政、地元大学、民間企業と連携したオンデマンド型の自動運転送迎サービスを開始し、持続可能な運行体制を構築。

## 春日井市石尾台にけるゆっくり自動運転送迎サービス経緯

- ・2017年度～ 高蔵寺ニュータウンでの**実証実験の推進**
- ・2022年8月～ サービス担い手として**地元住民による団体設立**  
『NPO法人石尾台おでかけサービス協議会』
- ・2022年10月～ **有償運行による送迎サービス開始**
- ・2023年 2月～ **自動運転（L2）での送迎サービス開始**



**利用会員募集中!** ゆっくりカートが走ってま〜す!!  
買い物や通院をドアからドアまでお気軽に。

運行日	月・火・水・金・土曜日 (木・日・初日・お盆・年末年始はお休みです)
運行時間	9時00分から16時00分まで (12時～13時を除く)
運行範囲	石尾台地区(裏面参照)
運行車両	電動カート(乗客定員5名)
利用料金	(会 員) 1回100円 (非会員) 1回300円 * 保護者同伴の小中学生以下は無料です。



**会員の種類と年会費**

会員の種類	年会費
A 町内会・自治会全体で加入	300円/世帯
B 任意団体で加入(5世帯以上対象)	1,500円/世帯
C 個人で加入	2,000円/人
D 世帯で加入	3,000円/世帯

**会員のお申込み方法**

加入ご希望の方は下記へお電話下さい、担当者がお伺い致します。緑ヶ丘老人憩いの家でも受付いたします。尚、全体加入の町内会・自治会の方は、個別申し込みは不要です。

## エキ・シロ地区でのパーソナルモビリティ実証実験

会場後方の体験  
ブースにて展示

- ★ 円頓寺商店街にて**電動車椅子の自動運転化**した  
**新たなパーソナルモビリティ**の利用意向把握を目的とした実証実験
- ★ **堀川の水上交通実験やUR都市機構の回遊促進実験と連携**

**【なごやまちなか実証と連携】**

✓ **調査期間**

2024年1月20-21日、24-28日

✓ **目的**

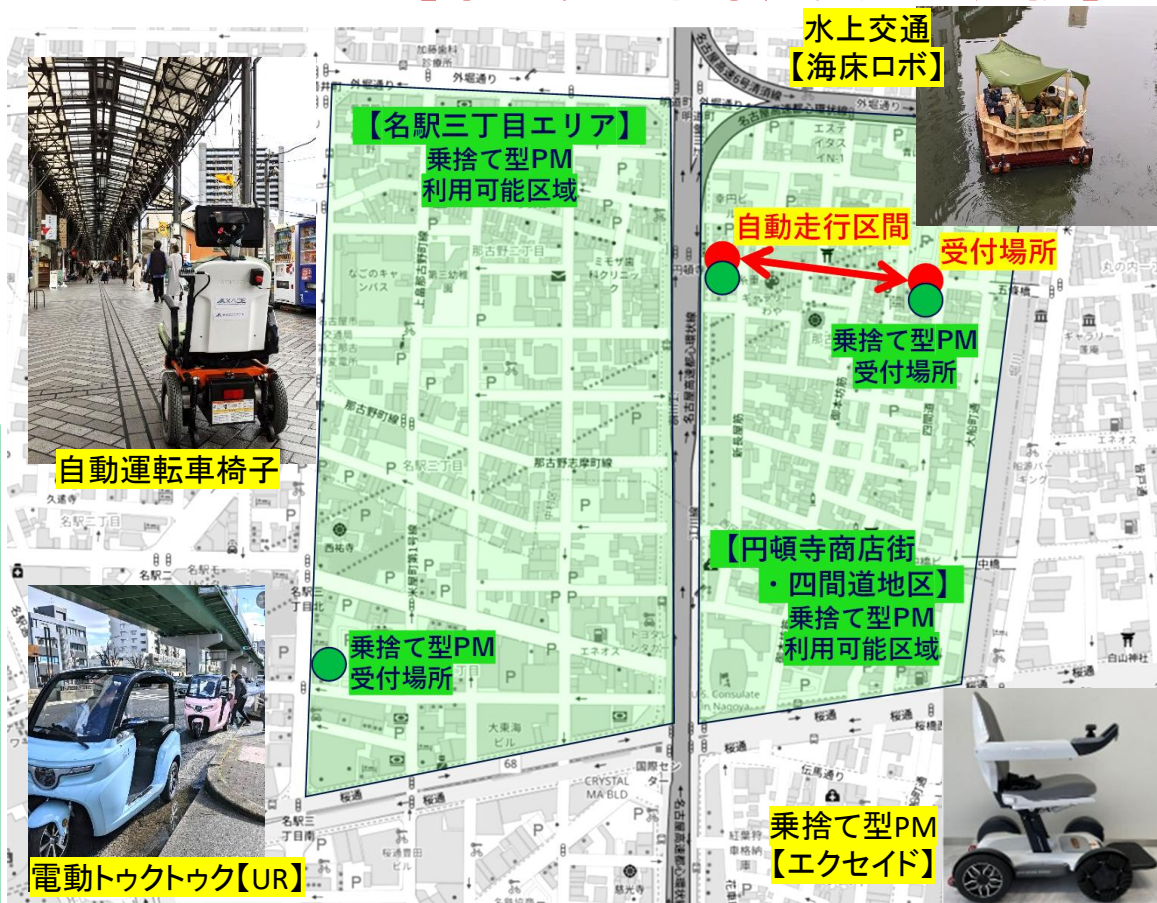
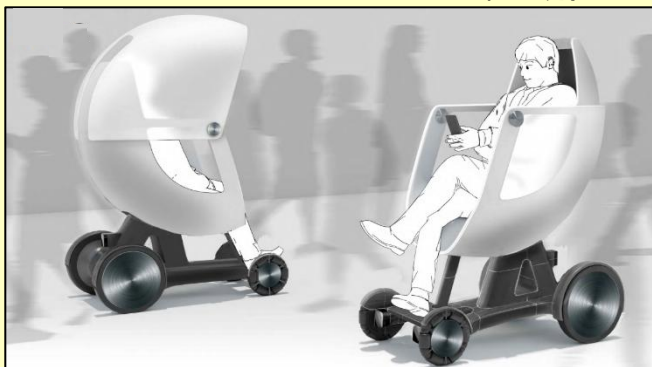
名古屋駅から那古野エリア、または円頓寺商店街内の移動利便性向上のため、新たなモビリティサービスの利用意向調査

✓ **結果**

100名にヒアリング調査

どのような人でも利用したくなるような  
パーソナルモビリティをデザイン

(新あいち創造研究開発補助金事業連携)



那古野エリア実証実験概要

# カーボンニュートラル視点で脱炭素型地域モビリティシステムの構築

- ✓ 台風災害によるエネルギー断絶リスク対策として、再エネ利用による**カーボンニュートラル政策**を推進
- ✓ 移動は自動車依存  
**公共交通の再編が必要**
- ✓ 2022年4月**脱炭素先行地域に選定**  
**(唯一の離島単体での選定)**

- ✓ 2023年8月に、沖永良部島をモデルとした**脱炭素・持続可能なモビリティ社会の構築に向けた連携協定**を締結  
(知名町、和泊町、名古屋大学、ヤマハ発動機)

鹿児島県

沖永良部島

面積：約94km<sup>2</sup>  
人口：約1.2万人  
主産業：農業  
観光客：年間8万人

奄美大島

徳之島

与論島

沖縄県

沖永良部島  
(新しい実証フィールド)

環境省認定 脱炭素先行地域  
**ゼロカーボンアイランド**  
おきのえらぶ

移動に伴い生じる環境負荷を考慮したカーボンニュートラルへの貢献

ガソリン車での移動から電動化モビリティ導入等の取組による島内での環境負荷低減

脱炭素型の地域モビリティシステムの実装

調和

島民 自然 文化 生活 動物 資源 伝統 産業 植物 景観

## 観光地での移動課題解決および受容性向上に資する 観光鍾乳洞における電動化自動運転実証 (R6年3~6月)



沖永良部島に即した、調和のとれた形での社会実装のため、  
島の将来を担う高校生（鹿児島県立沖永良部高等学校）との共創活動としてワークショップを実施



共創活動でデザインした自動運転車両と空間デザインしたガレージ



沖永良部島の取り組みについて **エコプロ2024** (12/4-6)  
サステナビリティ・トランスフォーメーションゾーンに出展予定



## 生活をナビゲートするライフコンテンツをインフォテインメントシステム よってのマイモビリティで情報提供し、行動変容を誘発する

①多感通信サービスによる  
サイバー・フィジカルライフコンテンツ

### ライフコンテンツ

個々人が日常の生活の中で得たい情報



働くこと 教育 医療・福祉 買い物 余暇

自らの意思で取得できる  
プランや知見を構築できるコンテンツ

新しい移動体験

外出・行動変容を実現

②新たなモビリティインフォテインメント  
プラットフォームとそのインタフェースの構築  
インフォテインメントシステム

マルチセンシング環境とアクセス環境を同時に処理



情報

融合

娯楽



これまでの車内インフォテインメントシステム



日常的な移動プロセスの中で  
多感覚な情報体験を得る  
ライフコンテンツのための特微情報

XR

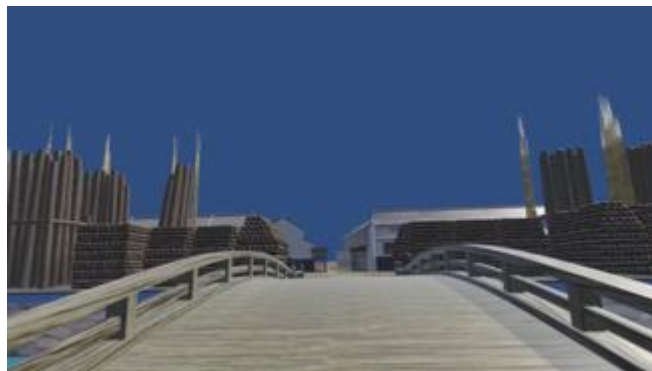
視覚

触覚

聴覚

3D地理情報

**3D CG復元モデル制作：**  
本町通、京町通、札ノ辻  
の街並みでの町屋など堀  
川の五条橋、中橋、伝馬  
橋の三橋の復元



会場後方の体験  
ブースにて展示

ボトルネックに切込む **先進地域モビリティシステム (AS)** と  
未来を切り拓く **革新的地域モビリティシステム (IS)**  
それらを支える **法制度と評価手法 (LV)**



## IS Innovative Local Mobility System

## AS Advanced Local Mobility System

AS  
Advanced  
Local Mobility  
System

**シンポジウム後、会場後方にて  
体験ブースを用意しています**

**このあとの『取り組み紹介』  
パートにてご説明します。**



IS  
Innovative  
Local Mobility  
System



## LV Legislation & Valuation





- **まちづくりとモビリティシステムの新しい関係性**、例えば街の循環器としての本来の目的に加え、**先進的モビリティそのものが来街目的**になるなど、にも思いをめぐらせ、
- 今後大きく街が変わる可能性が高い**エキ・シロ地区（名駅～那古野～名城）**をフィールドに、次世代につながる**まちづくりとモビリティのあり方**を考えたい。